



吉川小だより 2月号

京都府亀岡市立吉川小学校 令和6年1月31日発行

〒621-0014 亀岡市吉川町穴川平田17番地 TEL 0771-22-1210

E-Mail el-yoshikawa@edu.city.kameoka.kyoto.jp



カラー版は吉川小HPで！ ↑

心が動く本物体験 吉川っ子の感性を育てる！

大寒付近には、例年雪がちらつきますが暖冬といわれた今年でもやはり大寒波がやってきました。石川県をはじめ、北陸の被災者の方々の苦悩が日々伝わって参ります。遠い所のことでも、直接は関係がなくても、自分のこととして考えられることはとても大切なことだと子ども達と話しています。どうか、この厳寒を乗り越えていただきますようにお祈りします。

さて、今年度も残すところ2ヶ月足らずですが、子ども達に本物体験や貴重なチャレンジの機会をまだまだ提供できればと引き続き取り組んでいます。

1/11は能楽体験でした。1～5年生が謡いを、6年生が舞いを習い、16日には、体験発表と本物の能楽を鑑賞しました。日本だけでなく世界でも公演されている観世流当主片山九郎右衛門さんを座長に、人間国宝の能楽師宝生欣哉さん、スタッフ8名



を含み、総勢26名もの方々が吉川小のために来てくださいました。体育館が本格的な能舞台となり、形相の

鋭い鬼の能面、煌びやかな衣装、笙や鼓の澄み切った音、会場中に響く謡い…、多くの保護者や地域の方にも来ていただきすばらしい鑑賞会となりました。



1/26は太鼓芸能集団「鼓童」の創設メンバー藤本吉利さんをお招きし和太鼓に挑戦しました。二尺八寸(1.5t)の大太鼓は床の下から体中を音と振動が貫き、迫力満点でした。2回目の体験日が待ち遠しいです。



さらに、2/19には創立140周年の記念事業として自治会・心の教育・PTAの協力により気球体験を予定しています。

また、3年生は社会科の昔のくらしの学習で資料館の学芸員さんに来てもらって下駄を履いたり、七輪で餅を焼いたり本物に直接触れて当時の生活の様子や工夫を実感していました。



黒電話に興味津々の3年生

他にも、3学期のわくわく大会は、4つのグループに分かれ「大縄とび」に挑戦しています。怖くて縄に入れない低学年を高学年がサポートし、飛べるようになったときの感激はチーム全員で喜び合うくらいの貴重な体験です。

こうした本物体験や新たな挑戦は、わくわくしたり、緊張したり、喜び合ったり、悔しくて涙したり、様々な感情を生み出します。一つ一つの心の動きは感性を磨き、大きな成長につながります。そして、感性とは点数化できない非認知能力と言われるものですが、様々な体験や挑戦によって確実に豊かになるのです。小規模校の強みを最大限に生かして、一人一人の心が動く取組をどんどん取り入れたいと思います。

校長 藤田 哲也